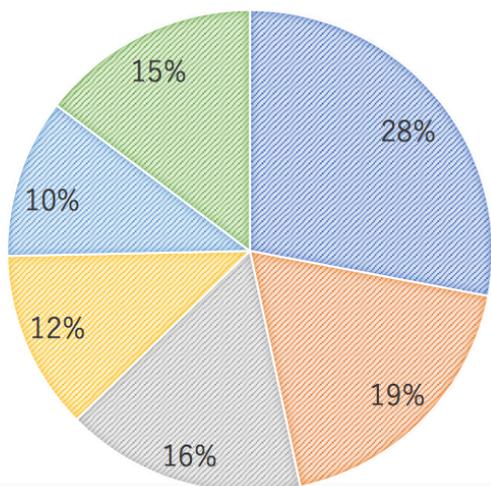


## 《学部別・入試形態別の部員の割合》

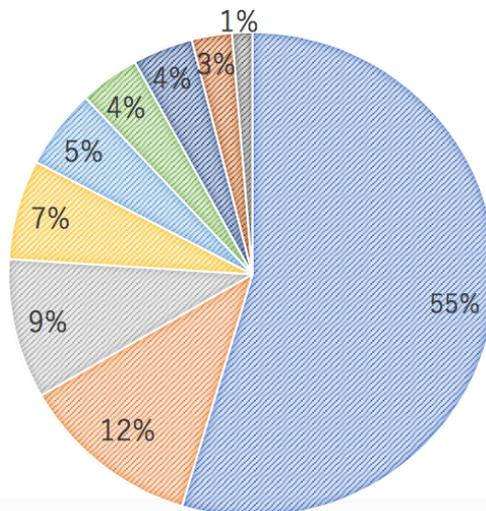
### 入試形態別の部員の割合

- 自己推薦
- 指定校推薦
- 付属
- スポーツ推薦
- センター利用
- 一般



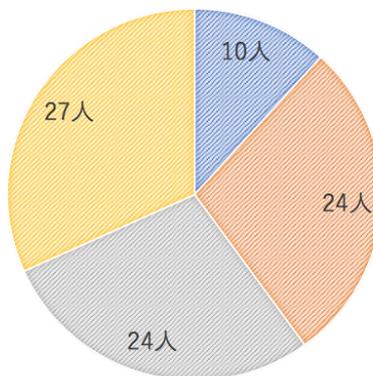
### 学部別の部員の割合

- スポーツ科学部
- 人間科学部
- 教育学部
- 商学部
- 文化構想学部
- 創造理工学部
- 社会科学部
- 政治経済学部
- 先進理工学部



### 学年別部員の人数

- スタッフ
- 四年生
- 三年生
- 二年生



## 《早稲田大学過去の入試問題》

<https://www.waseda.jp/inst/admission/undergraduate/past-test/>

(早稲田大学 HP より)

## 《入試形態別、部員の入試体験談》

## 【総合型選抜Ⅱ群（アスリート選抜入試）】※旧スポーツ推薦入試

※本入試制度は公募制ではありません。本学体育各部と連帯し、書類及び面接による選考が行われます。サッカーの実績もちろん必要とされますが、学業面やパーソナリティの面も重視されます。

3年 加藤拓己（スポーツ科学部）

出身：龍ヶ崎市立中根台中学校（鹿島アントラーズつくばジュニアユース）→山梨学院高等学校

皆様、初めまして。早稲田大学ア式蹴球部3年の加藤拓己です。昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け日常やサッカーに対しての自粛を余儀なくされていると思います。インターハイの中止を受け進路選択で大きく影響を受けてしまっている方々に私の経験を伝えることで微力ながら力になればと思っております。

### 1. 決断

私は小さなころから目標にしていた「サッカー選手」になるためにサッカーを続けてきました。鹿島アントラーズ Jr から JY に昇格する際も周りの仲間は昇格内定をもらった中私の実力では昇格はダメだと言われ一般生と共にセレクションに参加して何とか合格が出来ました。そのころから私は周りよりも下の選手でした。JY からユースの昇格もできませんでした。その後山梨学院に入学しました。高校生活も日本代表選出など周りから見たら輝いているように見える選手だったかもしれませんが。しかし何度もスタメン落ちをして、代表も外れて、結果の出ない時期もたくさんありました。大きな怪我也有りました。皆さんと同じ高校3年時は怪我からのスタートでした。それから自分なりに結果も出しました。プロサッカー選手になれると思っていました。でも結果はオフア0。自分が出した結果はただの自己満足でしかなかったと気づきました。夏に早稲田に練習参加をして選手が自ら考えて行動する姿や自分の意見を他人に発信する姿を見て私に足りないもの全てを感じました。「18歳でプロになる」という小さなころにたてた目標を置いて大学サッカーでもう一度自分磨きの修行をしようと決断した瞬間でした。

### 2. 入試

それから11月に行われるスポーツ推薦入試面接に向け過去に出題された質問をもとに対策しました。スポーツ推薦の入試は面接だけだったので面接練習に力を入れました。高校でも放課後に先生に協力してもらいノックの仕方・ドアの開け方などから指導を受けました。夜に寮で面接練習もしました。そして迎えた当日。1つ目は「あなたが早稲田大学で実現したいこと」でした。2つ目は「あなたが早稲田大学に影響を与えられること」私は2つともサッカーで回答しました。最後の質問の3つ目は「あなたが思うリーダーとは」でした。私はそれまでリーダーはその組織で何かが優れている人物だと考えていました。私は自分の考えのままに回答しました。すると試験官は言いました。「その答えを大学で見つけてください」と。その会話で入試は終わりました。入試まで緊張と不安でいっぱいだった日々がその瞬間に解き放たれたように感じました。

後日合格通知を受け、ア式蹴球部の強化部の方々と面接を行い入学へと至りました。

### 3. 私から皆様へ。

これから大きな分岐点に差し掛かるかと思えます。そんな時人は誰しも逃げたくなるものです。悩むものです。でもそれはみんな同じです。貴方が行きたいと思った大学に行けないこともあると思います。反対意見もあるかと思えます。けれど貴方の人生は貴方のモノです。決して親のモノでも、今の指導者のモノでもなく貴方のモノです。自分に嘘をついて大学を決めることは決してしないでください。誰かに「お前にあの大学は無理」と言われても成功をつかむのはその誰かではなく貴方自身です。自分の選択を良いものにするのも悪いものにするのも全て貴方自身です。何かに怯えて進路を選択すればこれからの人生何かに怯え続けます。失敗しても胸の張れる選択を皆様にさせていただきたい。それが私のただ一つの願いです。

---

### 【自己推薦入試（総合型選抜 III 群：スポーツ科学部、全国自己推薦入試：社会科学部）】

#### 2年 柴田徹（スポーツ科学部）

出身：須賀川市立第一中学校（ピアンコーネ福島）→平塚学園高等学校（湘南ベルマーレ U-18）

高校時代の主な実績：第 72 回国民体育大会優勝

自分が受験を経験したあの日から、もう高校生に自分の体験談を伝える日が来るとは、時の流れはあまりに早いように感じます。

私が早稲田大学を目指そうと決めたのはちょうど今くらいの 6、7 月辺りだった記憶があります。それまでは、高卒でプロの選手になることを考えていたので、大学進学など微塵も考えていませんでした。大学のことを真剣に考え始めたのは、自チームのスタッフとの面談で、高卒ではプロになれないと言われてからのことです。その時の私の気持ちというのは、「焦り」の一言でした。大学サッカーに関して 1 ミリも知らない、大学の受験システムも何もかも知らない。そういった状態に置かれ、改めて自分の無知さを実感させられました。高校生の皆さん、大学調査はお早めに。

自チームのスタッフの尽力もあり、高卒プロ昇格を断念されてから多くの強豪と呼ばれる大学の練習参加に行きました。どの大学も大学ごとの色があり、可能ならば全ての大学に入学したいと思うほどでした。それから色々と考え、早稲田大学に入学しようかと決断しました。私が受験した入試形態は自己推薦入試と呼ばれるもので、高校 3 年の 1 学期までの評定平均が 3.5 位上、最低でも全国レベルでベスト 8 以上の実績が必要と言われていました。1 次試験はこれらを評価する書類審査、1 次試験を通過すると、2 次試験として面接と小論文が行われ、合否が決まるといった形です。幸いなことに、私は高 1、高 2(早生まれ)と国民体育大会に神奈川県代表として出場することができ、3 位、1 位という結果を残すことができていました。また、自チームでも日本クラブユース選手権大会でベスト 8 まで残っていた為、この 3 つを自身の競技実績として提出することができました。

書類審査はこれらの実績のおかげで通過することができました。私自身1番苦しんだのが、小論文の対策です。小論文とは説文に対して決められた文字数の中で自身の考えを述べるものです。高校の教師には、「小論文は相手を説得させれば良い」とよく言われていました。しかし、それがなかなか難しく、何度やっても説得しきれず、原稿用紙100枚は優に超えるほど書いては修正してを繰り返したと思います。ひたすら書きながら、答えを模索している中、自分に合った小論文の書き方の型を見つけることができました。この「型」というものが非常に大切で、言ってしまえば、自分に合った型を見つけることさえできれば、小論文は乗り切れます。ただ、人の型を真似してはダメで、個人個人に合った型があるので、頑なにこの型が良いとは申し訳ないですが教えられません。ただひたすらに苦しかった小論文対策期間を経て私が今感じていることは、「やった分だけ小論文は上達する」ということです。いくら文章が得意でも、量をこなさなければ文に重みは出ません。自身の言葉で、自身のやり方で小論文対策を乗り越えてください。毎度800字ほどの文章を書く為、かなりストレスは溜まります。書く気も起きない日もあります。でも、その1日、1回をさぼらなかつたから今私はこうして早稲田大学生として学生生活を送れています。高校生の皆さんもきっとそういうことが起こると思いますが、自分の未来のことを想像して頑張ってください。

もう一つの面接は、何故その大学に進学したいのか、言い換えれば、その大学でなくてはならない理由をしっかりとと言えるようにしておくことが大切です。「貴大学のこのようなところが他大学には無い為、貴大学で専門的にそういったことを学ぶことで、将来こうなっていきたいと考えています」簡単に言うところのこんな感じです。また、行きたい大学について詳しく調べることは大前提として、世の中の流れもしっかりと把握しておくことが大切です。「あのニュースに関してどう思いますか？」みたいなことも聞かれたりします。社会に対して興味を持ち、その事柄に対して自身の考えを持っておくことで、社会人との架け橋となる大学という場に必要か必要ではないか評価される1つのポイントとなります。私が面接を経験して、大切だと感じてるのは1つはさっきも述べたように、「何故その大学でなくてはならないのか」もう1つは、「いかに自分の考えを伝えられるか」です。質問に対して、一般論を述べるのではなく、「多くの人はこう考えるかもしれませんが、私はこう考えます」といったように、自分自身の考えをしっかりと持ち、それを伝えることが大切です。一般論は誰にでも回答することができます。自分だけのオンリーワンの考え方を伝えることが他の受験生と差をつけるポイントになります。自分の考え方を大切にしてください。

これまで自己推薦入試について、私自身の経験をもとに、伝えさせていただきましたが、これらより勝って大切なものは、「絶対にこの大学に行くんだ」という「強い気持ち、想い」だと思います。想いの差が結果として表れます。思いが強い人ほど、その大学へ行く為の努力をしています。小論文、面接、双方とも方法論としては多くのやり方があると思います。ただ、気持ちというのは文章、言葉に表れるものです。いくら方法が確かなものでも、そこに気持ちが伴わなければ、相手に伝わるものも伝わりません。今年はコロナウイルスの影響で、多くのところに大きな影響が出ています。それは受験にも影響を及ぼしていると思います。私が受験をした時よりも過酷な状況に置かれていることは間違いありませんが、コロナの危機を乗り越えることができた皆さんなら、きっと受験も乗り越えることができます。不安、焦りは少なからずあると思いますが、自分自身としっかりと向き合って、自分自身で決断してみてください。そして、自分が一度決めた選択肢が正しい

のか振り返るのではなく、一度決めた選択肢で合格を掴み取る為の努力をしてください。自分を信じて、前を向いて進み続けた人に「合格」という2文字はついてくると思います。頑張ってください。少しでもこの文章を読んだ受験生の皆さんの力になれば幸いです。

---

大西翔也（スポーツ科学部）

出身：さいたま市立桜木中学校（浦和レッズジュニアユース）→さいたま市立大宮北高等学校（浦和レッズユース）

高校時代の主な実績：第23回Jリーグユース選手権大会優勝

私は二次審査の対策として、塾で小論文と面接の勉強をしました。また、学校の先生にも同様に対策をしていただきました。

小論文の勉強で大切なことは、自分なりの型を身につけることだと思います。どのような問いに対しても、ある程度自分の型へ誘導するコツを身につけることができれば、精度を高めることができます。そのために必要なことは、まず量をこなすことです。早稲田の過去に出題された小論文や、他大学の類似した小論文などに実際に取り組み、フィードバックしていきます。書く、改善する、そしてまた書く、というサイクルを繰り返すことで、自然と自分の型は構築されていきます。塾や学校の先生などに添削をしてもらい、トライアンドエラーをしながら継続して取り組むことで、必ず力はついていきます。最初のうちは他人の型を真似するイメージで、次第に自分の型へと洗練していくというスタイルでもいいと思います。とにかく量をこなして、自分なりの型をつくることを意識して取り組むことが大切です。

面接の勉強で大切なことは、情報や知識を蓄えること、自分の考えを明確に持つことです。面接では本番になるまでどのような質問がされるかは分かりません。そのため、どのような質問をされても、自分なりの考えや答えを明確に伝えられる準備をすることが必要です。そのためには、あらゆる知識や情報を蓄え、説明できるようにすることが大切です。また、大学に入って何を学び、卒業後にどのように結びつけるかというビジョンを持つことも大切です。なぜこの大学なのか、なぜ自分はここで学びたいのか、自分の将来とどう結びつくのか、などを明確に持つことです。そして、面接も繰り返し練習することで上達します。練習の積み重ねが、本番の安心に繋がります。何を質問されても、自分なりの考えを答えられるようになるまで練習することが重要です。

対策をしている時は、不安もありました。本当に大丈夫なのか、対策の量は足りているのか、など考えればたくさんありました。そのような時に自分を奮い立たせた方法は、「合格した自分を思い描くこと」でした。合格した先にある新しい出会いや景色、体験を想像することで、不安な思いなどを打ち消してきました。入試対策は大変で苦しい時期ではあると思いますが、その分、乗り越えた先には素晴らしい舞台があります。少しずつでも積み重ねて、着実に成長していくことが大切です。

---

4年 工藤泰平（スポーツ科学部）

出身：横浜市立瀬谷中学校（SCH.FC）→日本大学藤沢高等学校

高校時代の主な実績：第70回国民体育大会優勝

皆さん、初めまして。早稲田大学ア式蹴球部4年の工藤泰平です。昨今の新型コロナウイルスによる影響を受け、「高校3年生」という眩しすぎる青春の日々があらゆる面で自粛となった皆さんに対して僕の受験体験記をお伝えすることで何か少しでもお力になればと思っています。以下、①受験当日②受験対策③伝えたい思い という順序でお伝えしていきます。

#### ① 受験当日（スポーツ科学部スポーツ科学科）

僕は、今から約4年前の11月12日に早稲田大学所沢キャンパスにて小論文と面接試験を受験し、約1週間後の11月17日午前10時にインターネット上で合格通知を確認しました。早稲田の一員になれる喜びに胸が高鳴ったことを今でも鮮明に覚えています。

#### 【小論文】（時間：60分 字数：800字~1000字）

テーマ：「個」と「組織」の関係性について、あなたの考えを記述しなさい。

→試験開始時に、とあるストーリーが描かれている答案用紙を配布され、それに対する自らの考えを記述します。当時は、高校の野球部に入部を希望する障がいを持った生徒が居て、選手としてではなくマネージャーとして支えていく過程で周囲から必要とされる喜びやチーム内の関係性、友情など色々なことを学んで成長した、というストーリーだったと記憶しています。僕自身は、高校サッカー部に所属していたため、自らの経験を落とし込んで記述しました。

#### 【面接】（時間：約15分 形式：学生1人に対して面接官3人）

面接官には役割があり、①進行役②優しいおじさん役③鋭いツッコミ役 というような印象を受けました。聞かれたことは、志望動機はもちろん、高校時代に頑張ったこと（ここでは主に競技歴に関する質問）、大学に入って何を頑張りたいのか？などオーソドックスなことを聞かれました。僕自身、非常に緊張しましたが、この15分のために練習を積み重ねてきたので割り切って自分らしさを出すことをとにかく意識しました。練習方法については、②受験対策にてご紹介します。

#### ② 受験対策

工夫したことは、「時間の使い方」たったそれだけです。僕は、早稲田受験を決意してすぐに、駅前の個別塾に入りました。理由は、小論文の書き方を知らなかったからです。約2ヶ月間通いましたが、その間もサッカー部の活動があるため、練習のない月曜日しか先生から対面で教わることはできませんでした。しかし、小論文はやればやるだけ上達しました。

#### 【小論文】

月曜日に塾で出された宿題を仕上げては先生にメールにて提出し、添削をしてもらおう。その繰り返しで上達していきました。時には、電話対応をしてもらったこともありました。また、学校の国語の先生にも添削をもらい、「塾講師≠学校の先生」と往復する形で、とにかく小論文に触れ続け

ました。ある程度、小論文のノウハウを掴めたのなら、とにかく場数を踏むことが上達する唯一の策だと思います。小論文の基本となる起承転結や言葉のチョイス等は、僕がここでお伝えするよりも学校の先生や塾講師の方々に教わるべきだと考え、省略させていただきます。

## 【面接】

重要なことは、とにかくアウトプットすることです。僕は、サッカー部の監督をはじめ教頭先生や国語の先生など多くの先生にご協力をいただいて、「伝える」を繰り返しました。それでしか、改善点は見いだせないですし、自分の中で「なんだか伝えづらいな」と思った時こそ誰かに伝えてみることで改善されると思います。練習時間は、主に昼休みの時間を活用し、面接対策に関しては塾よりも学校で積み上げて塾で修正を加えるという形でした。伝える際には、決して硬くなりすぎず、自分らしさを忘れないことが大切です。

## ③伝えたい思い

これが僕の受験体験記です。皆さんも思ったかもしれませんが、何一つ特殊な対策はしていません。週一のオフを削って塾に通ったこと、周囲の友人は日大への付属エスカレーター受験を終え遊び呆ける昼休みに面接対策したこと、全ては「早稲田に何としても入りたい」その思いでしかなかったです。その思いを自分らしくありのまま面接官にぶつけてください。

今、早稲田大学の4年生として皆さんに言えることは、「早稲田に来て本当に良かった」この一言です。早稲田大学には、皆さん高校3年生のように眩しい青春の日々があります。自由に学び、やりたいことに奔走できる環境と友人にきっと出会えることでしょう。大変な時期ではあると思いますが、皆さんの受験が納得のいく形で終わり、晴れて早稲田の門を叩けることを心より応援しています。自分らしく最後まで頑張ってください。

---

## 【センター利用競技歴】

3年 川野秀悟（スポーツ科学部）

出身：宇都宮市立星が丘中学校（栃木 SC ジュニアユース）→栃木県立宇都宮北高等学校（栃木 SC ユース）

高校時代の主な実績：日本クラブユース選手権大会（予選敗退）

早稲田大学にはセンター利用入試競技歴方式で入りました。

今回高校3年生に向けてということで、私が受験生の時に抱いていた2つの気持ちと3つの意識していたことについて紹介したいと思います。今年度から入試形態が変わるということで、入試対策についてはお話できないことは残念ですが、ぜひご一読ください。

まず自分が当時抱いていたのは、危機感と自分に負けれないという気持ちです。

### 【危機感】

私は高校生のときに栃木 SC ユースというクラブチームに所属していたため、授業以外でまとまった勉強時間をとれるのは平日では練習が休みの月曜日と授業前、夜の 10 時半以降、休日だと夕方以降だけでした。高校 3 年となると学校では周りの人が大学合格に向け勉強に力を入れるようになってきていると思うのですが、そんな周りの姿や大学合格に必要な学力と自分とを照らし合わせて、とてつもない危機感を感じていました。その危機感は自分にとっていい方向に作用してくれました。まとまった時間で勉強している中で、より集中して勉強に取り組めたとともに、限られた時間を出来るだけ活用して勉強をしようという気持ちにさせてくれました。

### 【自分に負けたくない気持ち】

自分はいつも大学合格に必要な点数をを越えられた自分と越えられなかった自分を想像していました。そして越えられなかった自分にはなりたくないし、そんな自分に負けたくないと思っていました。その気持ちもまた危機感と相まってモチベーションとなり、勉強に対する取り組みを助長してくれました。

そんな気持ちで毎日過ごしていたのですが、その中で自分は 4 つのことを意識していました。それは、授業、スキマ時間、睡眠、サッカーと勉強の向き合い方です。

### 【授業】

1 つ 1 つの授業を最後まで集中して受けることを意識していました。おそらく 1 番効率の良い勉強方法だと思っています。当時は授業が生活の中で 1 番まとまりのある勉強時間であったとともに、先生の話など耳で聞く情報が勉強をする上で効率よく記憶に残るものだと思っていました。実際に自分にとって問題を解く時に思い出せたものの多くは、どの先生がこんな事を言っていたかというものだったような覚えがあります。目で見えて覚えるものよりもイメージとして覚えられるため授業を聞くことは当然のことかもしれませんが、意識する事としてお勧めします。

### 【スキマ時間】

生活の中で自分がやっている物事の間には少ないものの時間はあります。そこで自分はスキマ時間の活用を意識していました。自分は先程言った危機感からこれをやり始め、積み重ねるうちにいくつかの科目で成績が伸びました。暗記系のものや短い時間でも解答まで辿り着けるものをこのスキマ時間にやる事をお勧めします。

### 【睡眠】

睡眠は 7 時間とる事を意識していました。

実際に意識してやり始めてから成績があがり始め、記憶力も上がったような気がしました。これは嘘のようですが、自分は定期テストで毎回 80 位代だった自分が 2 位まで成績を上げることが出来

ました。なのでおそらく本当っぼいです。

勉強が中途半端でも 12 時には寝れるようにやめ、朝 7 時に起きるという生活をしていました。寝る前の勉強が中途半端でも、その分朝の授業前に勉強する時間を増やすことができていました。

### 【サッカーと勉強それぞれへの向き合い方】

これが 1 番大事だと思っています。それは最後までやり切るということです。自分はサッカーも 3 年の 10 月までやっていたのですが、そこまでサッカーをやり切ったからこそ、その後に勉強にも集中して取り組みました。また受験も終えてから感じた事として両方やっていた時もそれぞれをやっている自分の姿があったからこそ両方全力で取り組めたと思ったことを覚えています。最後までやり切るとは目の前のものだけでなく取り組んでいる他の事にも良い影響を与えてくれると自分は思っています。

自分が当時持っていた気持ちや意識していたことを書かせていただきましたが、これが受験に向け勉強をする人へ何かのきっかけになればいいなと思っています。

目標があるあなたが目標を達成して新たなステップへ進み続けられる事を祈っています。  
頑張ってください！

---

4 年 山崎昂 (スポーツ科学部)

出身:松本市立松島中学校(松本山雅 FC U-15)→長野県立松本県ヶ丘高等学校(松本山雅 FC U-18)

高校時代の主な実績:2016 クラブユース選手権大会 (全国ベスト 4 位)

高校三年生に向けて私自身の経験を踏まえた受験体験記をお伝えしたいと思います。何かお役に立つことができれば幸いです。

#### ① 受験方式

これは早稲田大学の H P を見ていただければわかるかと思いますが、英語+国語 or 数学 I A +その他一科目の合計 400 点満点のセンター試験に加え、スポーツ競技歴調査書 200 点満点の合計 600 点の試験となります。

#### ② スポーツ競技歴調査書

調査書は自分のこれまでの最も実績のあるものを書類として提出するものです。全国大会出場の実績があればチャンスはあると聞いていました。私自身は高校 3 年の秋に全国ベスト 4 という結果と夏の大会の全国大会出場の実績を記載しました。それにより自信を持ってセンター試験に臨むことができました。

スポーツ推薦や自己推薦に比べハードルは高くないのである程度の実力を持つ人はチャレンジしてほしいと思います。

#### ③ センター試験

センター試験では三科目で8割程度撮ることができれば合格する確率がグッと上がります。私も8.5割程度を獲得し合格できたため、3教科に絞って勉強すれば、確実に点数は伸びるため、頑張りたいです。私は基礎をとにかく固めることを行っていました。単語や文法などの勉強に力を入れれば得点は伸びてきます。それに加えて、もしや過去問の振り返りも重要です。間違えた問題だけではなく、正解した問題も回答・解説を見ながら振り返りをすることで実践的な能力が身につきます。ぜひ取り入れてほしいです。

これまで簡単に自分の経験を踏まえたセンター試験+競技歴方式について述べてきました。サッカーを最後までやり抜き、その上で受験勉強にも本気で取り組めたことは私の人生においても非常に大きな経験でした。

センター試験+競技歴方式を受ける人たちはサッカーも勉強も両立してきた素晴らしい人たちです。自分のことを信じ最後まで突き進んでほしいと思います。

今回は深くまで自分の話は入れずに書かせていただいたため、より詳しく話を聞きたいと思ってくださった人は気軽に連絡していただきたいです。

皆さん頑張ってください！

---

### 【一般受験】

2年 生方聖己 (スポーツ科学部)

出身：高崎市立高松中学校→高崎市立高崎経済大学附属高等学校

「.....」.....

今本当はこの「」の中に何か一瞬でもやる気が出るような偉人の名言を入れようと思い“受験にまつわる名言”と検索していたのだが、なんか“才能“がどうとか”努力“がどうだとか、”未来“や”過去“など、なんかグッとくるものが個人的になかったので辞めた。

ただ、それを検索にかけてひと通り見て思ったのは「結局やるしかない」ということだ(勿論かなりまとめて)。アルバートアインシュタイン~高杉晋作までの偉人が口をそろえて言うのは、口をそろえているわけじゃないのでニュアンス的に①未来は今日から始まる論②挑戦しなきゃ何も始まらない論③天才は存在しない論・努力できる人が天才論・とりあえずいいから努力しろ論、こんなところであろうか。まあ受験とは比べ物にならないモノを達成している人間から繰り出されたこれらは核心をついているというか流石といったところだ。規模は小さくても何かを成し遂げるといふ点で、これら3つの論は受験の“達成”にも当てはまる。特に③。結局は努力・努力の量。あの誰もが認める天才アインシュタインでさえ「天才とは努力する凡才のことである」と言っている。

「それでもあんたは天才だろ・・・」と思わざるを得ないのだが、残念ながら少しでもこのような思考が生まれてしまったそこのあなたは残念ながら受験を”達成”する可能性が極めて低い。これは「アインシュタインを天才だと思うな」と言いたいわけではなく「努力すれば何でもできる」と

いうマインドに、嘘でも、そんなこと1ミリも思っていないなくても、これから受験を戦っていく上で半強制的に変換しなくてはいけないということを示唆している。というのも、受験はいくら達成の規模が小さいといえども、10人に1人くらいの割合でしか受かることができない。そして、まるで歯磨きをするのと同じ容量で努力ができてしまう人間が地球には、早稲田を受ける人の中にはわんさかいるのだ。それこそ野口英世が言った、「誰よりも3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ。」と同じで、彼らは受かることが確約されている。そんな中数少ない”後天的努力達成群“にあなたが入るためには、なりふり構わずやるしかないのだ、と自分は思う。「努力の質も大切だ」⇒そんなの努力の質を探し求めるのも努力のうちだ。あたりまえだ。これを読んでいる時間にも努力の天才に差をつけられている。本当に受かりたいならばがんばれ。

最後に。自分は、努力ができる才能は間違いなく存在する、と思う。が、それと同時にその才能を後天的に入手する事は他に存在する多種多様な才能を入手するより圧倒的に難易度が易いとも思っている。それに一般で早稲田を目指そうと思っている時点で何らかの素質があることには間違いはないだろう

---

### 3年 公文翔 (スポーツ科学部)

出身：東京農業大学第一高等学校中等部→東京農業大学第一高等学校

自分は、国語、英語、世界史の3教科で早稲田大学を目指しながら、同時に明治、青山学院、立教といった大学も受けました。部活を最後までやることは自分の中で決めていたので、高校1年生の時から少しずつ準備は始めていました。高校3年生の時に自分がやっていた入試対策は、「ひたすら過去問を解く」というものでした。自分が受験する大学かどうかは関係なく、また、受験する学部がどうかも関係なく早慶上智、MARCHのレベルの問題をひたすらに解いていました。そのレベルの大学の問題を、5年分くらいはそれぞれやっていました。基礎はある程度高3に入るまでには出来ていたので、ひたすら実践をして間違えた問題を中心に復習していました。一般的にこの勉強法はあまり推奨されてはいませんが、結局実践から得られるものはどんなものでも大きいと自分は思うので、この勉強法をしていました。一方、世界史や英語の単語などの記憶するものは、毎日時間を決めて、声に出して覚えるということをしていました。少し厳しいことを言うようですが、どれだけ勉強をしたかではなく、どこの大学に受かったか、つまり過程より結果が重視されるのが大学受験です。ただこれは、スポーツの世界も、また社会に出た時にも基本的には変わらないのではないかと自分は思います。だから、気持ちが折れそうな時が何回もあると思うけど、その時は結果を出すためにどうしたら良いかということを考えて行動してほしいと思います。それは、「今日は気分転換で買い物に行く」ということかもしれないし、「ここまでやったら今日は早く寝よう」ということかもしれません。ただ、それが結果に結びついているといえるような行動をとることを意識して頑張ってください！

### 4年 中山尚英 (スポーツ科学部)

出身：宇城市立小川中学校（セレソン都城 FC）→日章学園高等学校

私は、一浪して入学しました。良くも悪くも高校まで部活動に没頭し、入試で闘えるレベルとは程遠い、課題をこなすだけの高校3年間でした。ただ、関東に出て、高い基準の環境下でサッカーをしたいという点は妥協できなかったため、浪人を決めました。予備校に通っていましたが、私は本当に底辺だったと思います。最初の模試では各教科半分も取れず、改めて現状を思い知らされました。しかし、それが良かったのだと思います。無駄なプライドはなく、他人と比べることなくただ自らの目標だけを見て取り組むことが出来ました。

国公立も狙っていたので、国語と数学もそれなりにやっていましたが、特に英語と日本史を徹底的に取り組みました。教えて頂いた予備校講師の方の授業が面白かったということもありますが、この2つやれば出来る教科で、あとは極め方次第だと思っています。理科基礎科目の勉強を始めたのはセンター1ヶ月前でした。

当時のこの時期、私はまだ全然点数が取れていませんでした。でも、当時の私はとにかく自分を信じ切っていました。前にも述べたように、周りの人は点数が取れ始めているとかは全く関係ない、大事なのは、自分の目標だけを見て、モチベートすることです。

あとは好きなことをして息抜きをすることも大事です。浪人したとはいえ、週末はペンを持たず、母校のグラウンドに行って、一緒に練習に混ぜてもらったり、社会人チームに所属して1シーズン闘いました。そこで、いろんな人に支えてもらっていると実感したり、改めて大学でサッカーがしたい、上手くなりたいという思いがモチベーションに繋がって、メリハリのある勉強を行うことが出来たと私自身は思っています。

このような世の中に、受験という大きな関門を迎え、本当に不安だと思いますが、とにかく目標だけを見て、自分を信じて、信じ切って頑張りたいと思います。